

## 令和4年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校（全日制）	記載者	副校長 石村 俊樹
------	----	-----	-------------	-----	-----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒70%以上 ○「挨拶ができています」と自己評価する生徒80%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のリズムを確立することは、年々少しずつ向上しており、効果的な指導が継続されていると評価できる。</li> <li>・1年生が生活リズムを確立するのに時間がかかっているため、生活面での初期指導の工夫・充実を期待する。</li> <li>・1年生の自己評価を60%前後に下げてもよいのではないかと。</li> <li>・元気な挨拶を受けた実感はあまりない。</li> <li>・あいさつに関しては、人の品格として根幹を成す要素であるため、静高生の尚一層の意識向上を切望する。生徒側からの挨拶向上の取組があっても良い。「まだ改善の余地がある」と自己評価されているため、今後注目したい。</li> </ul>
イ	<b>「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する</b>	○授業を大切に学ぶ生徒、主体的に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容がよくわかる」と自己評価する生徒80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPadの導入や授業配信の取組等は新しい試みとして大いに工夫が感じられる。</li> <li>・共通テストからも、思考プロセスの重視・多くのデータから重要な内容の選択と分析などの傾向が顕著となり、今まで以上に、「主体的・対話的で深い学び」を大切にしたい授業が求められている。</li> <li>・生徒の質問能力が上がるよう、質疑の時間が取れると良い。生徒に質問をさせながら授業を進めるスタイルも検討いただきたい。</li> <li>・成果目標が知的好奇心や探究心の高まりを測る指標ではなかったのが残念。</li> <li>・知的好奇心を喚起する授業への評価が71%である点は、今後の課題と考える。</li> </ul>
ウ	<b>低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る</b>	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒の割合80%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入らなければならない大学を見つけることは進学校として立派な志だと思う。</li> <li>・外部との連携バランスが良く、生徒が進路について考えを深める機会が提供されている。</li> <li>・「将来の夢や希望を持つ」の結果が必ずしも高くない。志の育成に繋がる効果的な啓発行事が実施してもらいたい。可能であれば、現在行っているジャンルを広げて、幅広い専門家からの講話の機会を増やしたい。</li> </ul>

エ	<b>学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに、社会に貢献する</b>	○学校行事や部活動に積極的に取り組む生徒 85%以上 ○1部活1社会貢献活動 100%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの感染症対策の中、大きな制限なしに学校行事や部活動が実施できた点は、総合的にみて、高く評価できる。</li> <li>・8割以上の生徒が、学校行事や部活動に積極的に取り組んだことは、「生徒の人間力(生きる力や豊かな感性)」に繋がり、社会に貢献できる人の育成に結び付くと思う。</li> <li>・高校においても社会貢献活動は、素晴らしい取組で、更に重きを置くべきと思う。</li> <li>・社会貢献を目的とする部活の創設や、部活でも社会のためになる高校生コンテストへの参加を活動目標としてはどうか。例えば、郷土研究部の一部をその方向に進めても良いと思う。</li> <li>・部活動は、異なる価値観を持つ人たちの集合体であり、そこからの学びは静高生のセルフコントロールや他者への尊重姿勢に結び付くと思う。</li> </ul>
オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間 年2回 ○図書館開放 年300日以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの状況下、図書館を年間306日間開館したことに併せて、朝の読書週間を実施して、読書習慣を定着させようとした取組は評価できる。図書館報「ぶつく★えんど」の内容も、質が高いと感じた。</li> <li>・図書館ボランティアの活動も継続していただきたい。</li> <li>・司書や教員の協力を得て読むべき本のPRキャンペーンを生徒がしてはどうか。</li> <li>・生徒アンケートにある、読書活動の推進への評価(56%)には課題を残している。</li> </ul>
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	○健康観察を通じたの情報共有 ○校内情報交換会 学期1回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検 学期1回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、学校の様々な対応は素晴らしい。</li> <li>・学校生活に適応が難しい生徒に対する、校内情報交換会、ケース会議の開催、SSWの活用など、生徒個人に手厚いケアが実施できた点は評価できる。</li> <li>・改修された生徒トイレを、生徒の美化意識の向上につなげているのはよい。</li> <li>・毎日の健康観察、定期的な安全点検を今後も確実に実施されることを望む。</li> <li>・生徒及び教職員の心身ともに健康は、大変重要な項目であり、特にメンタルヘルスマネジメントに力を注ぐべきだと考える。</li> <li>・コミュニケーションを良くするためにはお互いの話を聞くことと、日常的に話しやすい雰囲気大切である。</li> <li>・教員のコミュニケーション力アップの研修の機会があってもよい。</li> </ul>

キ	<p>教職員の校内外の研修を充実させる</p>	<p>○「スクール・ポリシー」、「育てたい資質・能力」を踏まえた授業改善に向けた研修機会の充実</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ICT活用」の校内研修会により、教員のICT機器のスキル向上につながった点は評価できる。今後の生徒への活用に関しては、先進事例を研究して、静高に合った形での積極的な運用を期待する。</li> <li>・スクール・ポリシーを今後どう活かしていくのかに注目する。生徒個人の資質・能力向上の観点にとどまらずに、地域・社会に貢献する若者を育成するという観点を意識して、運営・実践に結び付けてほしい。</li> <li>・4校合同研修会や教職員相互の授業参観週間等、大変すばらしい試みだと思う。</li> <li>・学校を応援するグループと積極的に関わりを持っていただきたい。</li> </ul>
ク	<p><b>新学習指導要領に対応した教育課程への円滑な移行及び土曜オープンスクールの充実を図る</b></p>	<p>○「カリキュラム・マネジメント」の視点からの新カリキュラム完成 ○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1000人以上</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧課程と併存しながらも円滑に実施された点は評価できる。</li> <li>・オープンスクールの参加者が1,574人と目標以上で、静高をわかってもらうための努力の表れとして評価に値すると思う。特に、多くの中学生及び保護者に、授業内容、ICT活用等を実際に見ていただけた点は良かった。</li> <li>・教員の本気の姿勢が、授業に、そして広報に現れる。さらなる、管理職の指導力の発揮に期待する。</li> <li>・オープンスクールの際には生徒制作の動画などを上映し、学校全体で広報力をアップしたい。</li> <li>・進路指導やスクール・ポリシーなど学校が変革していることを保護者や教育関係者に伝え、応援してもらえることが重要である。</li> </ul>
ケ	<p>校内外のプログラムや外部人材の活用を通して、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する</p>	<p>○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○参加生徒、教職員の視野の拡大</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンパワーメントプログラム、PDAディベート大会、トビタテ留学JAPAN、杉山晋輔氏の講演会等、静高生が多くの研修・交流活動に参加して、大きな刺激を得て、視野の拡大につながった点は評価できる。</li> <li>・グローバルな視野の育成や、国際交流を推進することは、これからの社会において必要不可欠な観点であり、さらなる取組を期待する。</li> <li>・生徒が望む講師(こんな人の話を聞きたい)による講演会を実施してはどうか。</li> <li>・今後もオンリーワン・ハイスクール事業等を活用して、現役大学生、卒業生、大学の各学部等との連携の推進・拡大を期待する。オンライン活用を工夫して、推進していくやり方が安全で現実的だと思う。</li> <li>・しっかりと活動されていることが説明さ</li> </ul>

					<p>れ、感心した。結果が出るには長い時間がかかるでしょうが、期待できると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルに考えることは大変良いが、身近な問題から普遍的な思考ができるようになってほしいと思う。</li> </ul>
コ	<p><b>「学校における働き方改革」に組織的に取り組む</b></p>	<p>○行事・業務の意義や必要性を見直し、整理・精選を図る。</p> <p>○産業医への勤務状況報告と指導助言の実施 毎月</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍を「新しい価値観を創出するきっかけ」と捉えて、何が静高の価値観を高めるのか、生徒・教員にとって、本当に必要な業務は何なのかを見直したい。「やめる・減らす・見直す」がキーワードとなる。思い切った「働き方改革」の推進を望む。</li> <li>・生徒に対するケアを密にすればするほど教職員に負担のかかるシステムは改善の必要があり、斬新な改善策を静高から提案できるといいと思う。</li> <li>・静高の職員の枠内では問題解決は困難であり、県全体の枠で働き方改革について取り組んでいただきたい。</li> <li>・「働き方改革」を進めるためには、教育費の大幅増額が必要ではなかろうか。是非、実現させていただきたい。</li> <li>・先生方が心の健康を大切にされることをお祈りする。</li> </ul>